

第 1 回 立川市史編さん委員会意見概要（平成 27 年 9 月 2 日開催）

○行政文書について

- ・ 保存・活用・閲覧の仕組み作りが必要である

○資料収集・整理・調査について

- ・ 横田基地保管文書・GHQ 文書などの調査や、海外調査も視野に入れる必要があるが、まずは研究者の協力を得て、国内の調査をしっかりと行う必要がある
- ・ 音声や動画も収集対象にすべきである
- ・ 時代によっては取扱いに注意する項目もあり、本編に記述できないことも想定されるが、次世代のためにも資料は収集しておかなければならない
- ・ 古老への聞き取り調査はできるだけ早く着手をすべきである
- ・ 20 年～30 年前に実施した聞き取り調査の活用をしたほうがよい
- ・ すべての資料は目録化をしておくべきである
- ・ とくに近代から現代の資料はリスト化しておくことが大切である
- ・ 近代以降の立川市の特徴のひとつは旧日本陸軍と米軍である
- ・ 限られた時間のなかで調査しなければならないので、優先順位をつけて取り組む必要がある

○市民参加について

- ・ 市民と一緒に作ったと感じられるような市史編さん事業に

○市史について

- ・ 資料の映像化はとても効果があり、インパクトが大きい
- ・ 資料編の考古編は、原始から近世までの考古資料を対象としてまとめる必要がある
- ・ 通史の記述については、まず事実の確定が大切である
- ・ 読みやすい市史とするためには、なるべく専門用語を使わないようにすることも大切である
- ・ 『立川市史』は増刷を含めて 2,500 部の発行で、立川市民の人口から比べると非常に少ない。読まれるような工夫を。
- ・ 電子版などネット掲載用の市史もあわせて刊行してはどうか